

九州鑛業界の推移

福岡鑛務署管内の諸統計

鑛山労働者の増減は、前年の消長に替わらず、増減するものである。世界戦の開始後、即ち鑛業界が物價の騰貴に達した大正四年から、昨年迄に到る趨勢を見るに左の如く

石炭業の好況 翌年つた八年が最も多い五十七年と漸増し八年を総計として九十兩年は漸減して昨年年度に激減を示したものは、即ち採掘制限の結果に依るものである。労働者 數

大正四年 同 五年 同 六年 同 七年 同 八年 同 九年 同 十年 同 十一年 同 十二年 同 十三年 同 十四年 同 十五年 同 十六年 同 十七年 同 十八年 同 十九年 同 二十年 同

福岡縣の第一世帯 福岡縣の七割を占めてゐる労働者は、全縣の七割を占めてゐる。前年より増加した時は、福岡は四百三十三人、佐賀は五百三十三人、長門は八百四十二人、山口は千六百卅四人、大分は千五百三十三人、熊本は八百五十二人、鹿兒島は二百人の例れも減少となり、熊本に於て三百六十九人の増加を見るも、總計として至りては五萬八千二百四十七人の減少である。

縣別	男	女	計
福岡	101,245	112,115	213,360
佐賀	112,115	123,115	235,230
長門	123,115	134,115	257,230
山口	134,115	145,115	279,230
大分	145,115	156,115	301,230
熊本	156,115	167,115	323,230
鹿兒島	167,115	178,115	345,230
計	1,234,567	1,345,678	2,580,245

石炭の需要 如何に其の好況に至るの關係があるか、炭制にして、後、増減されるか、れ以上に労働者の激減するに至るである。其の他の金属鑛業に於ては、最早、時局の結果、南炭の如く、興つた機械の産物、成りに整理が行はれた今日、増加から今後其の生産額に幾分の増減はあり、大勢に異形を與ゆるが如き事はあるまいと思はれる。

鑛山公傷者

福岡鑛務署管内鑛山に於ける十年中の公傷者は、重傷四百九十七人、輕傷二千四百五十二人、合計三千三百四十九人にして、九年は、重傷四百八十八人、輕傷二千三百五十八人、合計二千八百四十六人、増加した。十年は、重傷四百九十七人、輕傷二千四百五十二人、合計三千三百四十九人、増加した。十年は、重傷四百九十七人、輕傷二千四百五十二人、合計三千三百四十九人、増加した。

附大正五年六月迄の統計、未調製ナルモ、労働者數、於て採掘、坑數、著シキ激減ヲ来シ、遂ニ大正五年迄、數字ヲ示スベシヲ想セリナリ